伝え合うことの大切さ

仲嶺　真弓

５月27日（土）親子まつりを開催しました。楽しんでもらえましたか？　94家庭中59家庭の参加で、当日はお天気も良く各クラス日頃の保育の一場面を体験してもらえたのではないでしょうか。オープニングの職員パフォーマンスによる「はらぺこあおむし」に拍手をいただき、楽しんでもらえていることを肌で感じ、職員一同うれしく思いました。次回の行事は６月17日（土）の祖父母交流会、30日（金）のパパ懇談会と続きますが、楽しく集えることは何かを探し続けたいと思います。

【　「仲ちゃん（仲嶺）と話がしたい」という依頼を受け…　】

５月は、数人の保護者から「仲ちゃんと話がしたいから時間をつくってほしい。」という依頼を受けました。時間が経つのも忘れての一時となり、うれしく思うと同時に伝え合うことの大切さを感じた時間でした。保護者からは「あらたまって園長と話をする機会もなかったのでどんな考えをもっている園長なのかわかりにくかったので話しに来てよかった。」という言葉を返してくれました。緊張しながらもこんな私と話したいと場を設けてくれたことに感謝です。以下の文面は、その時に話してくれた疑問とそれについてのやりとりの一部ですが、他の保護者にも知ってもらいたいと思ったので巻頭で書くことにしました。

親子まつりについて

５月初旬に親子まつりのＮｏ.１ニュースをみて「今年度の親子まつりの内容は職員だけで決めたの？！「一緒に考えようと思っていたのに方針が変わったの？」と疑問に思ったのでどうなっているのか教えてほしいと話してくれました。思い起こせば、親子まつり行事も今回で５回目を迎え、最初の数回は保護者にも呼び掛けて保護者と職員と共同の実行委員会を立ち上げて親子まつりの内容を決めていました。親子まつりのお知らせも保護者実行委員が作ってくれた年もありました。その頃の内容は園内に3～4箇所の遊び場コーナーをつくり、当日、参加者は興味があるコーナーから巡り、保護者も子どもと楽しみ大人同士も親睦するという形でした。コーナーの企画や準備も実行委員が考え、手作りの金券で５歳児がお店やさんごっこを楽しむコーナーがある年もありました。“できる時にできる人ができることをする”ということをモットーに保護者も職員も一緒になって準備し、当日も行事を楽しみました。けれどその形での進め方を数回重ねるうち、コーナー企画や準備を負担に感じる保護者の意見が多く聞かれるようになり、職員の中でもスムーズに会議を進めることも難しく思うようになっていました。そんな状況を目の当たりにして、楽しむ行事でありたいのに負担ばかりが先にくるこの状況を何とかしたいと思いました。そして考えたのが、晴天の場合は保護者の声を拾い親子で散歩コースを楽しむ、雨天時は園にあるもので遊ぶ計画を立て、当日保護者に手伝いを依頼しようという内容でした。そうすることで負担は軽減できるのではないかと考えて内容を変化させた経緯がありました。けれど今回の疑問を聞いて、それは職員だけの判断だったことに気付かされました。準備など負担に感じる人もいてあたりまえ。でも、それが関係作りの始まりで、回を重ねるごとに共通の話題ができ、それがあるから行事が楽しみになり楽しさに変わることもあるということを保護者の発言を聞いて思い出しました。ここ数年、負担を苦痛に感じている声をきくたび私自身もつらくなり、この状況を何とかしたいと思い、軽減することばかり考えがちだったことに気付かされました。今後に活かせていきたいと思います。

土曜日保育の受け入れ方について

「土曜日保育の受け入れ方について職員で話したことはあるの？」という疑問に、保護者のどんな思いがあるのか知りたくなりました。土曜保育は土曜日も仕事という家庭が利用することが基本ですが、保育園の役割の一つに家族支援という大きな柱があるので、仕事でなくても子育てや仕事の疲れ、その他いろいろな事情で利用したい人も、事情を聞きながら受け入れていこうということを日頃から職員で共通認識して対応しています。けれど、保護者からこの疑問が聞かれるということは、職員の言葉足らずなど何か不具合が起きているのだろうか…？　と心配になりながらも話を聞いていました。聞き進めるうちに保護者が聞きたい疑問は、「職員によって対応が違ったことがあり困ったのですが、それはどうなっているの？　実際、兄弟でもクラスによって対応が違い、なんで？　と思った。」と聞き、それはぜひ、一度職員に聞いてみたいと思うので、職員会議で討議させてほしいとお願いし、５月の職員会議で討議しました。

職員会議では、保護者が疑問に思った背景を説明し、疑問に思って当然であることを踏まえ、保護者から「無理なお願いとはわかっているのですが、どうしても一人では小学校の運動会に行くのは無理なので土曜保育を

利用したい」という希望を聞いたら自分ならどう応えるかを討議しました。以下はその会議で職員からでた意見ですが、職員によって対応が違う現状があることがよくわかりました。

- 詳しく事情を聞き、どうしようもない事情と判断したら受け入れる
- けれど小学生の兄弟がいる家庭は、他にもたくさんいるのだからその理由で受け入れていたらすごい人数になり、たちまち保育がまわらなくなるし、土曜日の保育士の数を増やせばその分平日にクラスに関わることが少なくなるから受け入れは…むずかしいかなぁ…
- けれど、受け入れは難しいと答えるだけではよくないよね。他にできることはないかを一緒に考えたい
- 受け入れることだけが支援なのかなぁ？　自分なら受け入れられないけれど他にできる支援はないかを考える。たとえば、一緒に見ることが可能な保護者に声をかけ、保護者同士が繋がるきっかけにもなるよう動くかな。
- 個人的にみることが可能な職員がいないか聞いてみる手もあるよね。

などの意見がでました。結果、この件についての具体的な対応は、小学校の運動会が理由での土曜保育利用の受け入れはできないけれど、他にできる手立てはないかを一緒に考えることを大切にしようということを職員で話しました。そして、保護者の希望を聞いたとき、クラス担任だけの判断にとどめず、聞いた情報を共有しながら他に手立てはなかったのか、職員間で考え判断することも大切であることをあらためて職員会議で確認しあいました。

「カンガルーの会（保護者会）と保育園は別物」発言について

「実は、園長のこの言葉を聞いてとても違和感を覚え、寂しさを感じました。」という思いも話してくれました。これに関しては、新しく入園してくる保護者にもわかるように、あえて私は使っていることを話しました。あえて使っているその意図は、“保護者会は園がリードするもでもなく、指示してやってもらうものでもない。保護者主導で自由に活動できる会であると思う”からでした。こんな意図があるのでこれからもこの発言は変えようとは思わないのですが、話を聞きながら、私の言葉足らずなところが、保護者の違和感に繋がっているのかもしれないと気付きました。それは、別物である発言は事実だけれど、目指したい目標は同じで、“このつばさ共同保育園という場所が子どもにとっても、大人のとっても心地よく集える場所でありたい”そんな願いをもって,カンガルーの会（保護者会）も保育園も取り組んでいるのだから、サポートできることはお互いサポートしていける関係でありたいという気持ちまで言葉にしていなかった私でした。

最後に…

保護者とどんな関係でありたいかはメッセージとして発信していたつもりでしたが、「私について」知ってもらう機会は断然少ないことに今更ながら気付かされます。（事務室での事務処理や職員指導、地域対応の仕事がほとんどの私は、自分の言葉で保護者と会話する機会が少ないのだから当然のことです。）

「仲ちゃんのよさはいっぱいあるから、もっと前にでないともったいない」という言葉もいただきました。嬉しく感じつつも、どこか戸惑っている私もいました。というのも、自分では人生の中で今が一番前に出ていると認識していて、それは私の個性がそうさせているのではないかという思いもあったからです。そんな気持ちも含めて保護者と語り合う中で、自分の個性をベースに園長としても今、何をプラスすればいいのか、わくわくしながら考えている自分がいました。園長になって４年目の春。何か大きな心のプレゼントをもらえたようでとても感慨深く、話しに来てくれたことに感謝しました。

保護者の方誰でもwelcomeなので、いつでも事務室に立ち寄り、お茶しに来てください。

※パート職員の岩下知永さんが、一身上の都合により５月末日で退職となりました。

親子まつりのあと
保護者会総会が開催されました